

古き良きを伝え、新しいものを知る。 高齢者と大学生との異世代交流。

さくらばたけしもめいろうかい
桜島下明朗会

山口県

社会福祉学部設立から
異世代交流が始まった。

高齢者にルールやボールの打ち方を教わりながら、女子大生がクラブでボールをヒット。ボールはホールポストの遙か手前で止まりました。打ち損ねても、そこは笑顔。スコアより大切なのは交流です。

山口県立大学社会福祉学部のプロگرامに、学生たちと一緒に姿を見せていた高齢者の方々は、老人クラブ「桜島下明朗会」の会員たちです。

「明朗会」が学生たちと交流するようになったのは、平成6年、同じ地区にある山口県



立大学に社会福祉学部が開設されたのがきっかけでした。大学が地域と交流を図るために設けたプログラムの積極的な活用し、学生との交流を図っています。

会員が学生に古くから伝わるしきたりなどを教え、学生から今の流行や若い世代の考え方などを教えてもらう交流は、双方にとって意義深いものです。「明朗会」は、「異世代が共存して共生社会を創る」とを信条に、異世代交流に重きを置いた活動を行っているのです。

グラウンドゴルフなど
リキキュラムを通じて交流。

学生との交流活動は、大学のカリキュラムの中で学生たちと一緒に計画を立てて行います。年3回のグラウンドゴルフ大会（10月、2月、3月）や、地区の自然と歴史探訪などを企画・運営するほか、ゲー

ムなどを行う交流を年に数回実施。こうした活動は、学生の論文作成に役立っています。

また、学生サークルや自主活動、大学の行事にも積極的に参加。交流の深さは大学のカリキュラムを超えてプライベートに及びこともあり、山口を離れた卒業生から手紙が届いたり、電話がかかってくることもあります。

山口県立大学生との交流は、大学側の報告書に記録されています。平成24年度「ソーシャルワーク演習報告書」（山口県立大学社会福祉学部実習会議刊）の中で、「老人クラブとの交流を通して学んだこと」として5編のレポートとあわせ掲載されています。

異世代交流などの活動をさらに深化させたい。

「明朗会」では、県立大学の学生との交流のほかに会の活動も活発に行っています。

月1回の定例会では、1か月間の活動を計画・確認するとともに公会堂の清掃を実施。会独自の活動として、会員の親睦旅行、講師を招いての研修会、グラウンドゴルフやペタンク（ボールゲーム）、公園の清掃などを行っています。また、地域の6地区合同で行う体力測定や、3世代交流グラウンドゴルフ大会などの行事にも積極的に参加しています。

今後は、県立大学との異世代交流をさらに深めるとともに、会独自の活動を活性化させて地域との交流も一層深めていきたいと考えています。

